

バスケット選手になりたい



やっだ あゆと
矢津田 歩翔くん
(7歳・新山)

- 趣味
バスケット
- 自慢できること
サッカーのシュートが得意なこと
- 今一番やりたいこと
アメリカに行ってみたく
- 家族に伝えたいこと
これからもあいさつを頑張ります

菊陽人 りさーち



掲載を希望する人は、はがきか電子メールに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記し、〒869-1192 菊陽町役場総合政策課 sogoseisaku@town.kikuyo.lg.jp までお送りください。
注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡します。



こばやか わ なつ き
小早川 夏葵さん
(11歳・光4町内)

- 趣味
バレエ
- 今後の目標
薬剤師
- 今一番やりたいこと
プールで遊びたい
- 友達に伝えたいこと
これからも遊んでください

優しい笑顔が魅力

人権のひろば

◇印からの文章は、先生のコメントです。
◇作者の学年は昨年度の在籍です。

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.65】

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎(232)2113

「ふわふわ言葉」と「チクチク言葉」の学習をふり返って

菊陽西小学校 3年
渡邊 美空

クラスみんなと「チクチク言葉」と「ふわふわ言葉」の力について話し合いました。

わたしは「ありがとう」「いいしょに遊ぼう」という「ふわふわ言葉」を何回も言われたことがあります。その「ふわふわ言葉」を使われると気持ちよくなったり、心が温まってホッとしたりうれしくなったりしました。「すいね」「天じょうぶ」という「ふわふわ言葉」を相手に言うと、相手がニコニコしてよるこんでくれたり「ありがとう」と言ってくれたりして、私の心もうれしさを温まりました。「ふわふわ言葉」は、人をよるこばせたり、気持ちをよくさせたりする気持ちいい言葉なんだなあと感じました。

ぎやくに、わたしは「チクチク言葉」を言われたことがあります。「バカ」とか「みそラーメン」とか名前を変えられたことを言われると、悲しくなったり、いやな気持ちになったりしました。そして、「お父さんがすてきな名前をつけてくれたのに」と思う気持ちがずつと頭の中にのこっていました。

でも、わたしも「チクチク言葉」を言ってしまったことがあります。その時は、相手をききつけることを分かっていても、言ってしまう。イラッとした時や言いたいことが言えなくなった時

などに、つい言ってしまう。ほかにも自分に言われたくないことを言われたときに、言い返したくなって言ってしまったことがあります。「チクチク言葉」は、相手を悲しませたりいやな気持ちにさせたりするいやな言葉なんだなあと感じました。

わたしは、これからは自分がいやだと思ったことは「チクチク言葉」で言い返すのではなく、ちゃんと「いやだからそんなこと言わないで」と言っていて、相手をいやな気持ちにさせないようにしようと思っていました。



▲なかま

◇これまで「自分のふり返り」をする学習を大切に重ねてきました。その中で分かったことを大事にしなが、これからにつなげていく学習を進めていきます。

花火を見たよ

武蔵ヶ丘第1保育園
高橋 海羽 6才

グリーンランドで花火を見たよ。花火がきれいだった。ハートとちようちよの花火がかわいかった。夢みだだった。りーたん(妹)は「こわい」って泣いて泣いたよ。ママとパパとりーたん(妹)と行っ

たよ。マー(おばあちゃん)はお留守番してたから、四角いチョコみたいなのが入ったクッキーのおみやげを買ったよ。「ありがとう」って言った。お化け屋敷に入ったけど、怖くて泣いた。パパが抱っこしてくれた。パパはうーたん(私)が6才になっても抱っこしてくれる。また行きたいな。



▲夢みだだった



▲花火がきれいだった

◇夏の夜の風物詩である花火を見て、その美しさに感激した様子が伝わってきます。「いろいろな色が見えたんだよ！大きなのもあったよ！」などと話をしてくれました。
大きくなって抱っこしてくれるパパが大好きで、頼もしいパパの手を大きく描いています。抱っこされたときのパパのぬくもりはいつまでも心に残っていることでしょう。

きくよう文芸

菊陽句会報

忍冬なだれ咲きつつなだれ散る	井 子文	豊富なる命の水や早苗ゆれ	宮川ユキエ
終活を姉と語りて沙羅の花	財津 早雪	夕虹や目ざす日課の三千歩	曾我 育代
故郷は心の隅に姫女苑	原野レイ子	梅雨合間雲の衣引き阿蘇の峰	曾我トモ子
今生の終わりのごときはたた神	カ 幸子	針に糸一氣に通る新樹光	日高 妙子
雨の中一際映ゆる濃紫陽花	寺尾千代子	憧れ人認知症とや雲の峰	紫藤 祥子
夏の始まりビー玉ほどの南瓜なる	高橋 孝子	一語出ぬそのもどかしさ夕端居	村上 朋子
きつちりと土間に並びし田植靴	堀川 妙子	独り言ペダル踏み込み夏の句座	野口 令史
くらなしの花に癒され登り坂	佐藤 節	さくらんぼ甘酸っぱさは少女の日	藤本 純子
阿蘇の峰すつばり包む梅雨の雲	吉野 早苗	銅賞のほこり煎し蝉時雨	佐藤 健
葭原のささめく葭切隠しゐて	井上久美子	紫陽花の彩を尽せし雨意の風	佐藤 澄世

短歌会

梅雨明けも間近か強き日射しありトマトハウスに入るをためらう
鋭き光放ちて真澄む上弦の月にしばしのわが心かも
何気なき言葉に含まる憂いあり哀しみ持ちて人は生きしか
梅雨の雨響きとなりて降りそそぐ紫陽花の花は重たげに揺る
朝ながら打ち水かけて清めれば席入り前の露地の静寂
山吹の剪定終へし庭広く光と共に風通りくる
丸めたる土を指にて押さへゆく窪みを付けむ生動を得む

梅田 國雄
河北 幸一
佐藤せい子
中村トシエ
松岡富紀子
山川 カヅ
松本 東亜